

## 第三者評価結果入力シート（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

### ①第三者評価機関名

特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
--

### ②評価調査者研修修了番号

SK2021187
SK2021190

### ③施設名等

名称：	救世軍希望館
施設長氏名：	畑瀬 剛
定員：	65名
所在地(都道府県)：	大阪府
所在地(市町村以下)：	茨木市中穂積2-16-11
T E L：	072-623-3758
U R L：	<a href="https://www.salvationarmy.or.jp/">https://www.salvationarmy.or.jp/</a>
<b>【施設の概要】</b>	
開設年月日	1949/3/30
経営法人・設置主体(法人名等)：	救世軍社会事業団
職員数 常勤職員：	33名
職員数 非常勤職員：	24名
有資格職員の名称(ア)	心理士
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称(イ)	家庭支援専門相談員
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称(ウ)	個別対応職員
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称(エ)	里親支援専門相談員
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称(オ)	
上記有資格職員の人数：	名
有資格職員の名称(カ)	
上記有資格職員の人数：	名
施設設備の概要(ア) 居室数：	25
施設設備の概要(イ) 設備等：	本館(学童棟) 37名
施設設備の概要(ウ)：	幼児等(エンゼルホーム) 16名
施設設備の概要(エ)：	小規模GC(すみれ・ピンク・みどり) 12名

### ④理念・基本方針

<p>〔理念〕 慈愛・希望・実践 Let's get active for Well-BEING          みんなでやれば出来る希望と夢の実現を</p> <p>〔方針〕 生活する子ども達が、互いに助け合い、育ち合う中で豊かな人間性を養うとともに、「主体性・社会性・創造性」の3つを身につけていけるように育成していく。</p>
--

### ⑤施設の特徴的な取組

<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども達は、ブラスバンド部やマラソン部をはじめとする多様なクラブ活動と登山やキャンプ等の多様な行事に参加する中で、「主体性・社会性・創造性」を育んでいる。</li> <li>・多くの教育機関から毎年80名を超える実習生を受け入れている。今年度はコロナ禍で他の施設が実習生の受け入れを減らす中、希望館は合計100名受け入れた。</li> <li>・近隣・遠方、有形・無形を問わず多くの方がいくつものボランティアサークルに参加し、子ども達を支援している。</li> </ul>
--

### ⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間(ア) 契約日(開始日)	2022/12/21
評価実施期間(イ) 評価結果確定日	2023/5/30
前回の受審時期(評価結果確定年度)	令和元年度(和暦)

### ⑦総評

希望館は大正4年（1915年）開設の歴史のある施設だが、子どもたちを取囲む社会環境の変化に伴い、養育・支援の基本方針に一層の進歩が求められている。ここでの生活に満足し、すくすく成長する子どもがいる一方で、不満を抱えながら生活する子どもがいる。担当職員は戸惑いながらも必死にその思いを受け止めようとしている。本来希望館はこの様な「迷える子羊」のために存在する。職員、ボランティアの子どもの養育・支援に掛ける思いは熱い。一人ひとりの子どもの声に耳を傾けて、だれ一人取り残すことなく、継続的な養育・支援に当たることを期待する。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

今回も様々な指摘事項を頂いたが、一つひとつ改善し、子どもに対してより良い支援ができるようにしていきたい。特に色々な部分で指摘された、「今までの経験に裏打ちされた、知識や方法などを明文化し、職員で共有できるようにする」作業に取り組んでいきたい。そのことにより、経験の浅い職員であっても、一定レベルの支援が可能となり、施設全体の処遇力の底上げに繋がるものと考えている。

⑨第三者評価結果（別紙）

（別紙）

## 第三者評価結果（児童養護施設）

### 共通評価基準（45項目） I 養育・支援の基本方針と組織

#### 1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		第三者 評価結果
①	1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体（パンフレット、ホームページ等）に記載されている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。	○
	<input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	○
【コメント】		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・希望館の理念と方針は、キリスト教の精神と救世軍の主義を基本としている。</li> <li>・職員は、職員会議や施設内研修等でミッションステートメントを唱和するなどして施設の理念と方針を共有し、チーフ職員を中心に子どもの教育・支援に臨んでいる。</li> <li>・子どもと家族には、入所のいきさつから保護者に対して希望館の方針や取り組みを説明できない場合があるが、それ以外は入所時にパンフレットにより周知している。</li> </ul>		

#### 2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等適切に対応している。		第三者 評価結果
①	2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	b
	<input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設（法人）が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	
【コメント】		

・施設長は、救世軍施設長研修や全国児童養護施設協議会の全国研修等の外部研修において社会福祉事業全体の動向について情報収集を行っている。また、大阪府内児童養護施設長研修で地域の福祉計画「大阪府社会的養育推進計画」の内容を把握している。把握した情報やデータを基に令和2年に「小規模かつ地域分散化、高機能化及び多機能化・機能転換に向けた計画書」を策定した。  
 ・毎年の事業計画・事業報告・決算書で進捗状況やコスト分析を行うことを望む。

②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	a
	<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

・令和4年度事業計画の冒頭に今年度の重点課題として①子どもの養育について、②ホームページの開設、③施設の地域分散化へ向けた取組み、④人材確保の強化、⑤その他を掲げている。  
 ・ホームページの開設は救世軍本部の了解を得て、近く開設する予定をしている。  
 ・事業計画は職員会議で職員に周知している。  
 ・地域分散化へ向けた取組みについては、すでに土地を取得し、取組みを進めている

### 3 事業計画の策定

(1)	中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	第三者 評価結果
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	a
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

・「新しい社会的養育ビジョン」等を踏まえ、令和2年に長期的な計画「小規模かつ地域分散化、高機能化及び多機能化・機能転換に向けた計画書」を策定した。  
 ・R7年4月に地域小規模グループホームの開設を目指し、計画を進めている。  
 ・R11年度末の施設形態として地域小規模施設3か所を予定している。  
 ・R3年度に土地の購入に向けて動き出して、R4年度はその動きを更に加速させることとしている。

②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

・R4年度の事業計画の重点課題に長期計画「施設の地域分散化へ向けた取組み」の内容を反映している。  
 ・R4年度の事業計画の内容は、児童支援、業務分担・研修計画、施設整備・防災対策、地域貢献事業いずれも実行可能な具体的なものとなっている。  
 ・目標は定性的な表現になっており、定量的な数値目標や具体的な成果が設定されていない。  
 ・実施状況の評価が行える数値目標や具体的な成果等を設定することを望む。

(2) 事業計画が適切に策定されている。

①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

- ・事業計画は、職員会議・グループ会議・チーフ会議での職員の意見を集約・反映して策定している。
- ・事業計画の実施状況は、定期的開催される諸会議で把握している。
- ・事業計画の実施状況は、毎年度末の事業報告で評価している。
- ・事業報告での評価結果に基づいて翌年の事業計画で見直しを行っている。
- ・事業計画は職員会議で職員に周知して、理解を促している。

②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	

【コメント】

- ・事業計画の内、年間行事計画は子どもたちに周知している。
- ・事業計画の養育・支援、居住環境の整備等については、子どものコミュニケーション能力に合わせて伝えているが、会議等で子ども・保護者に周知する体制は整っていない。
- ・事業計画を、子どもが集まる機会に説明を行う、子ども向けの資料を作成する、年齢に応じた工夫を行うこと等を望む。

#### 4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		第三者 評価結果
①	8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C:Check)を行う体制が整備されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	

【コメント】

- ・子ども一人ひとりに「自立支援計画表」を作成し、実施した養育・支援の内容を記録している。
- ・実施した養育・支援の結果については「在籍児童の状況調査票」で毎年評価している。
- ・第三者評価を3年に1度受診しており、今回が4回目の受診である。
- ・養育・支援の体制を評価・検討する仕組みが十分ではない。
- ・評価結果を分析・検討する場を設け、実行することを望む。

②	9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	<input type="checkbox"/>



<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	○
<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	
<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	

【コメント】

- ・評価結果にもとづく課題について、職員会議、グループ会議、ケース検討会や施設内での研修において職員間での共有化をはかる機会を設けている。
- ・諸会議において課題の改善策を職員の意見をもとに策定している。
- ・年度途中の見直しや評価をする時間が十分にとれていない。
- ・定期的に改善策の見直しや評価を行うことを望む。

## II 施設の運営管理

### 1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。	第三者 評価結果
① 10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a
<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	○
<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	○

【コメント】

- ・施設長の役割と責任については、管理規定の「職務分掌・施設長の専決事項」に明確にしている。
- ・施設長は事業計画の中で、施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。
- ・施設長は職員会議で「自らの役割と責任」ならびに「施設の経営・管理に関する方針と取組」を職員に周知している。
- ・施設長の不在時にはチーフ長（基幹的職員）が業務を分担することとなっている。

② 11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a
<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	○

【コメント】

- ・施設長は各種研修に参加し、時事・新聞報道について耳目を広げ、遵守すべき法令等を十分に理解した上で職務にあたっている。
- ・施設長は、救世軍施設長研修や全国児童養護施設協議会の全国研修等の外部研修において法令遵守の観点での経営について理解を深めている。
- ・施設長は外部研修の内容を職員会議で報告し周知を図っている。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。	
① 12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	a
<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○

<input type="checkbox"/>	施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	○
<input type="checkbox"/>	施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	○
<input type="checkbox"/>	(社会的養護共通) 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	○

【コメント】

- ・施設長は古典を読むなど常に自己研鑽に励み、管理者としての専門性の向上に努めている。
- ・施設長は職員会議で養育の理念を周知・説明し、養育・支援の質の向上に指導力を発揮している。
- ・施設長は場合によっては自ら手本となって子どもと向き合う姿勢を職員に示す等によって、職員の処遇力の向上を目指して働きかけている。
- ・施設長は「子どもと向き合う」、「入所児童の行動理解」等を内容とした研修の充実を図っている。

②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	a
<input type="checkbox"/>	施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	○
<input type="checkbox"/>	施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	○
<input type="checkbox"/>	施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	○
<input type="checkbox"/>	施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○

【コメント】

- ・施設長は法人の理念や基本方針の実現に向けて十分な職員数を確保し、子育て中の職員の勤務時間の調整や夜勤体制の対応を行い、職員の働きやすい環境整備に取り組んでいる。
- ・施設長は健康管理委員会・学力向上委員会等の各種専門委員会を組織・運営し、業務の改善点等を把握しながら、職員が円滑に業務を遂行できるように取り組んでいる。
- ・それにより日課の変更やスムーズな遂行が行われるようになっている。

## 2 福祉人材の確保・育成

(1)	福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。	第三者 評価結果
①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	b
<input type="checkbox"/>	必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	○
<input type="checkbox"/>	養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	○
<input type="checkbox"/>	計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	
<input type="checkbox"/>	施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	
<input type="checkbox"/>	(社会的養護共通) 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	○

【コメント】

- ・事業計画の重点課題に「人材確保の強化」を掲げ、福祉人材の確保と育成に関する方針を確立している。
- ・大阪府や兵庫県の幅広い養育校から実習生を毎年80名受け入れ、人材確保に繋げている。
- ・就職フェア等への積極的な参加を行うなど、人材確保に向けた計画やプログラミングを策定・実行している。
- ・想定した人材確保につながらないのが課題である。
- ・計画に基づいた福祉人材の確保や育成を望む。

②	15 総合的な人事管理が行われている。	b
<input type="checkbox"/>	法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができています。	○
<input type="checkbox"/>	人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。	
<input type="checkbox"/>	一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	

<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	○

【コメント】

・事業計画の児童支援・指針の項に「期待する職員像」が明確にされていて、施設長、チーフ職員の評価に基づき、各職員の資質を十分に発揮できるような配置をしている。具体的には担当児童の決定・クラブ担当の決定・その他、各業務の引率等において実行している。  
 ・人事基準が明文化されていない。職員が自らの将来を描くことができるような仕組みづくりを望む。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	○
	<input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	○

【コメント】

・施設長は労務管理の責任者として十分な職員数を確保することで、職員の勤務状況に柔軟に対応している。  
 ・子育て中の職員には勤務時間を調整し、不測の事態への対応をやすくして、ワークライフバランスに配慮している。希望館で職員の子どもを預かることもある。  
 ・福祉人材の確保、定着の観点から勤務時間の見直し等も含めて、より働きやすい環境も整えようとしている。  
 ・改善策は具体的な計画を策定し、実行することを望む。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	○
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	○

【コメント】

・「期待する職員像」は事業計画の児童支援・指針に「行いをもって誠実に愛し合おう」として明確にしている。  
 ・年に3回(5、10、1月)施設長面接を行い、職員とのコミュニケーションのもとで個別的な育成方法を取り入れている。  
 ・職員一人ひとりの目標を設定し、進捗状況を確認する目標管理の仕組みが十分ではない。  
 ・目標管理の仕組みを構築することを望む。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	○



<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	
<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	
<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	○

【コメント】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・「期待する職員像」を明示しているが、職員の教育・研修に関する基本方針や計画を策定していない。</li> <li>・職員の研修受講状況を把握するための研修カルテを作成し、それに基づいた研修計画を実行する予定である。</li> <li>・管理規定に施設が職員に必要とされる専門援助技術や専門資格を「資格一覧表」として明示している。</li> <li>・毎年の事業計画の中で職員研修計画を策定し、実施している。</li> <li>・職員の教育・研修に関する基本方針や計画を策定し、それに基づき教育・研修を行うことを望む。</li> </ul>
--

③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	a
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	○

【コメント】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員研修は、職員の経験年数や配置に応じて過不足のないよう配慮した上で受けさせている。</li> <li>・新任職員は、5月と2月に開催される北摂児童施設連盟の新任職員研修大阪府社会福祉協議会が主催する新任職員研修会を受けている。</li> <li>・毎年の事業計画に内部研修予定・外部研修予定を記載し、職員に周知している。</li> <li>・研修を受講した職員は、研修報告を作成し、事業所内で伝達研修を実施している。</li> <li>・担当ごとに配置されているチーフ職員が配下の職員のスーパーバイズを行う体制を確立して取り組んでいる。</li> </ul>
--

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	○
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○

【コメント】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪府と兵庫県の複数の実習校から毎年80名の学生を受け入れ、福祉の質の向上と人材確保に寄与している。令和4年度は他施設がコロナ禍で実習生の受け入れを減らす中、希望館は100名の学生を受け入れた。</li> <li>・実習生一人ひとりに担当職員をつけ、個別的なサポートをするとともに、職員自身が学びを深めることができるようにしている。</li> <li>・実習終了後、アルバイトとして勤務し、職員として入職するケースも多くある。</li> </ul>
--

### 3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。	第三者 評価結果	
①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a



<input type="checkbox"/>	ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の有存在意義や役割を明確にするように努めている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	<input type="radio"/>

【コメント】

・大阪府や法人本部の監査に加え、第三者評価（今回で4回目）や会計事務所の監査を受診している。  
 ・地域の民生委員や主任児童委員、学校長に施設で行っている活動について説明し、意見交換を行っている。  
 ・ホームページについては法人本部の許可を受け近く公開を予定している。ホームページの活用により事業計画、事業報告、予算、決算情報を公開し、施設の運営を透明化することを目指している。

②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a
<input type="checkbox"/>	施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	<input type="radio"/>

【コメント】

・事務、経理、取引等に関する各規則については、管理規定、経理規定等に文書化し、必要に応じて職員が閲覧できるように備え付けている。  
 ・事業状況に関する大阪府、財務状況に関する会計事務所による外部監査、法人からの内部監査を受けている。  
 ・監査に基づく指摘事項については経営改善を実施している。昨年度は大阪府の指導により、BCP（事業継続計画）を策定している。

#### 4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。		第三者 評価結果
①	23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a
<input type="checkbox"/>	地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	子どもの個別的状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	(児童養護施設) 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

・地域との関わり方についてはミッションステートメントに「地域社会のあらゆるニーズに答えられる福祉の拠点を目指す」ことを文書化している。  
 ・自治会やPTAなどの役員を引き受け、施設が地域に受け入れられるよう努力している。  
 ・地域の行事等での施設の居場所や役割がある。地域の自治会等から厚い信頼を得ている職員もいる。  
 ・地域の子供も達が施設に遊びに来ることがある。

②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b
<input type="checkbox"/>	ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。	<input type="radio"/>

<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

・ボランティアの受け入れに関する規定を設け、30年以上前から近隣・遠方、有形・無形を問わず年間を通して多数のボランティアを受け入れている。  
 ・受け入れにあたって必要な研修の時間を設けているが、その内容や体制については明文化していない。明文化・マニュアル化することを望む。  
 ・施設長は子どもたちが通う小学校の校区地域協議会の委員として、小学校の学校運営に参画して地域の学校教育への協力を行っている。

(2) 関係機関との連携が確保されている。

① 25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a
<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 地域に適切な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

・施設として利用可能なリソースを把握し、必要に応じて活用をはかっている。関係機関として、子ども家庭センターや地域の民生委員、学校なども連絡会をもち、状況共有と子どもの支援に務めている。  
 ・近隣10市と契約しショートステイ事業を実施している。また、大阪府子ども家庭支援センターの要請に応じて一時保護児童を受け入れている。  
 ・市内の虐待予防ネットワークに参加し、役員会や企画推進委員会を年3回開催し、事業計画などについて話し合っている。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

① 26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	a
<input type="checkbox"/> 施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	<input type="checkbox"/>
(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 施設のもつ機能を地域へ還元したり、地域の関係機関・団体との連携等を通して、地域の具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	<input type="checkbox"/>
(5種別共通) <input type="checkbox"/> 地域住民に対する相談事業などを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

・地域の子育て支援ネットワーク(子ども”わいわい”ネットワーク茨木)の事務局を努め、多くの「子育て支援事業」を開催することで中長期的な「児童虐待の防止」の一助とすることを目指している。  
 ・地域の民生委員・私立の保育所・社会福祉協議会等とも連携し、地域に根差した福祉ニーズに対して子育てサロンや親子広場、研修会を実施している。  
 ・里親啓発活動を令和4年度に3回開催している。

② 27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b
<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 施設(法人)が有する養育・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	<input type="checkbox"/>

地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。

【コメント】

- ・法に定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献事業として、地域の子ども食堂を職員が応援し、“わいわい”ネットワーク茨木が運営する子育てサロンなどに協力している。
- ・どんぐり山フェスタや中部ブロックフェスタを開催し、地域コミュニティの活性化に貢献している。
- ・災害時の住民の安全・安心のための備えは不十分である。
- ・被災時における福祉的な支援を必要とする人々への支援策や手順について文書化することを望む。

### Ⅲ 適切な養育・支援の実施

#### 1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。		第三者 評価結果
①	28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	<input type="checkbox"/>
【コメント】		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の倫理綱領やミッションステートメントを明文化し、職員会議の場等で唱和し、常に職員が理解を深め実践できるように働きかけている。施設内の研修・外部研修等を通じて、子どもの権利や基本的人権の尊重について職員が学習できる場をもっている。</li> <li>・それに基づいた子どもへの支援の方法について子ども家庭センター等と連携しながら実施している。</li> <li>・事業計画の児童支援の項に指導方針・指導目標を設定し、事業報告で評価して翌年の事業計画に反映している。</li> </ul>		
②	29 子どものプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守るよう設備等の工夫を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。	<input type="checkbox"/>
【コメント】		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・3人部屋を2人部屋にして居室の人数を減らし、より一人あたりのスペースを確保するなどプライバシーを保障するための改善を行っていて、将来的には地域小規模施設での個室化を目指している。</li> <li>・子どもや保護者に施設のプライバシー保護に関する取組みを周知しておらず、利用者アンケートでも「プライバシーを守られている」と回答した子どもは50%に留まっている。子どもや保護者に周知すると共に改善策の検討を進めることを望む。</li> </ul>		
(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。		
①	30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	b
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	<input type="checkbox"/>



□子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。		
<b>【コメント】</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真や図入りのパンフレット等、施設を紹介するわかりやすい資料を準備している。</li> <li>・学生や見学者等には、日課や行事等の説明を加えた資料を作成している。</li> <li>・入所する子どもやその保護者にはそれらを用いて希望館での生活がイメージしやすくなるような工夫している。</li> <li>・近隣の住環境の変化が著しいところからパンフレットの見直しを計画している。</li> <li>・パンフレットをより施設の特徴を紹介する内容とすることを望む。</li> </ul>		
②	<p>31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。</p> <p>□子どもや保護者等が自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う養育・支援についてできるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。</p> <p>□養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。</p> <p>□養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。</p> <p>□意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。</p>	b
	□子どもや保護者等が自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う養育・支援についてできるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	○
	□養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	○
	□養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	
	□意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	
<b>【コメント】</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの入所にあたっての説明は大阪府子ども家庭センターが対応しているが、希望館としては行事や支援を行う前にその必要性や意義を子どもにわかりやすく説明し、子どものやる気や支援に取り組む意識を高めるよう努めている。各種の行事に保護者を招くなどし、施設内の雰囲気や理解できるような機会を設けている。</li> <li>・養育・支援の取組みについて、文書化やマニュアル化は十分ではない。子どもや保護者への配慮について文書化・マニュアル化することを望む。</li> </ul>		
③	<p>32 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。</p> <p>□養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。</p> <p>□他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。</p> <p>□施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。</p> <p>□施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。</p>	b
	□養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	○
	□他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	○
	□施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	○
	□施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	
<b>【コメント】</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・退所や家庭引き取りにあたっては、安定した自立につながるよう配慮している。子ども家庭センターとの綿密な協議を重ねた上で緊密に連携し、場合によってはその保護者・引き取り先の学校や地域の関係機関をも含めたカンファレンスを実施し、退所後の生活がより安定したものとなるよう努めている。</li> <li>・退所後の相談援助にも積極的に取り組んでいる。20年前に育っていった子が正月に来てくれたことがあった。</li> <li>・退所後の相談方法や担当者について文書化して子どもや保護者に提示することを望む。</li> </ul>		
(3) 子どもの満足の向上に努めている。		第三者 評価結果
①	<p>33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。</p> <p>□子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。</p> <p>□子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。</p> <p>□職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。</p> <p>□子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。</p> <p>□分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。</p>	b
	□子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	○
	□子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	○
	□職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	
	□子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	
	□分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	○
<b>【コメント】</b>		



・第三者評価受診や意見箱の設置、年1回の嗜好調査による献立の改善等により子どものニーズをキャッチし、施設の生活に子どもがより満足を感じることができるよう支援を展開している。昨年度から、法人から派遣された職員に子どもの意見の聞き取りを行ってもらうなど、より子どもの意見をくみあげる機会を設けた。  
 ・ここでの暮らしに不満を持ち、職員に反抗する子どももいる。一人ひとりの子どもの声に耳を傾け、把握した結果を子どもの参画のもとで、検討することを望む。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、子どもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た子どもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	<input type="radio"/>

【コメント】

・苦情解決責任者・苦情受付責任者・第三者委員が設置されている。  
 ・上記の三者を明記した掲示物を子どもや保護者の目に留まる場所に掲示し、何かあればすぐに意見が述べられるようになっている。  
 ・意見箱を設置し、その意見に基づいた第三者委員会を実施することで子ども達の意見表明がしやすい体制づくりを行っている。

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	<input type="radio"/>

【コメント】

・子どもたちには何かあれば誰にでも相談できることを周知し、子どもの状況に応じてこちらからも声かけを実施している。子どもからの相談があった場合は、個室を用意して安心して意見が述べられるようにしている。  
 ・子どもの意見については職員間で共有し、速やかに事態の解決にあたっている。  
 ・「困ったな」と思った時に、施設の外の大人の人にも話すことができることを知っている子どもは50%に留まっている。わかりやすい説明文を作成し配布することを望む。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

・苦情に関わらず、子どもの相談や意見を受けた際には内容に応じて迅速かつ適切に対応する体制を築いている。  
 ・場合によっては、第三者委員に報告して助言をいただいたり、子ども家庭センターとも連携しながら養育・支援の質の向上に関わる取組みを行っている。  
 ・相談や意見を受けた際の手順や対応策の検討等はマニュアル化されていない。対応マニュアルを策定し、実施、見直しを行うことを望む。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。		第三者 評価結果
①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。 <input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。 <input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。 <input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。 <input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。 <input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。 <input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	b

【コメント】

・危機対応時のマニュアルを作成し、報道等の事例から職員の理解を深め、万が一の際の迅速な対応力を高めている。  
 ・ヒヤリハット報告書を収集し、事案の検討や職員の研修に活用している。  
 ・これらは施設長のリーダーシップで行われているが、リスクマネジメントに関わる責任者や委員会の設置には至っていない。リスクマネジメント体制を整備することを望む。

②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。 <input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直している。 <input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。 <input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。 <input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	a
---	---	---

【コメント】

・感染症対策にあたる職員を任命し、研修に定期的に参加させている。  
 ・研修で得た知識を職員会議等で各職員にフィードバックし、必要な知識を伝達している。  
 ・感染症の対策に当たっては、必要な処置が行える備品を常備し、その使い方を教育して安全な対応を行えるようにしている。  
 ・子どもたちに対しても日常から衛生管理等に努めるよう声かけを行っている。

③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。 <input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。 <input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても養育・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。 <input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。 <input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	a
---	--	---

【コメント】

- ・災害時の子どもの安全確保や備品管理等を職員間で徹底している。
- ・事業継続計画（BCP）は昨年度策定している。
- ・災害訓練は毎月一回実施している。
- ・災害時の避難誘導や子どもの人数把握については職員間で共有されている。
- ・備蓄品についてはリスト化し栄養士が管理し、必要に応じて破棄・補充を行っている。

## 2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。		第三者 評価結果
①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	<input type="radio"/>
【コメント】		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・希望館の理念・方針に基づき、子どもの尊重・権利擁護・プライバシー保護の姿勢を貫いた業務マニュアルを作成し実践している。</li> <li>・業務マニュアルの基本的な支援方法や日課の過ごし方については、新任職員に研修を行ない周知を図っている。</li> <li>・標準的な実施方法と異なるやり方がなされれば、その都度、上級職員から指摘や修正を行ない、是正を図っている。</li> </ul>		
②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的実施されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	<input type="radio"/>
【コメント】		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当職員が中心になり、チーム職員のチェックの機会を得て策定した自立支援計画を、子どもの状況に応じた標準的な実施方法で、養育・支援ができていないか、常に検証しながら検討している。</li> <li>・自立支援計画を子ども家庭センターに提出し、担当ケースワーカーと内容の共有を図り、子どもの支援体制について協議しながら実施している。</li> <li>・ケースにより必要に応じて、自立支援計画の定期的な見直し・実施方法の見直しを図っている。</li> <li>・更に、年度末には、子どもの意見箱等に出された意見も反映したマニュアルの見直しを行なっている。</li> </ul>		
(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。		
①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員（種別によっては施設以外の関係者も）が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な養育・支援の内容等が明示されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員（種別によっては組織以外の関係者も）の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	<input type="radio"/>
【コメント】		



・自立支援計画策定責任者は施設長が担い、年度初めには、子ども一人ひとりの状況や課題を担当職員等と話し合う場を設けている。  
 ・自立支援計画策定は、子どもの各担当職員が中心となって、入所時の調査記録、本人の行動観察をケースワーカーと確認し、心理士や栄養士を含む事例検討会議やその他の処遇会議等で活発な意見交換をふまえ立案している。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

・見直しにより変更していく場合は、担当職員からチーフにあげ施設長への手順をふまえ、ケース会議で周知している。  
 ・自立支援計画の見直しについては、一年に一度行なわれる会議と、こども家庭センターの訪問調査やその他のカンファレンスの際の話し合いで行なわれている。  
 ・職員には、子どもの気持ちや意向を把握し、子どもの状況・経過をよく理解するためケース記録をよく見るように指導し周知を図っている。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの閲覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

・子どもについての記録を標準化し、統一した書式で記録することで職員間の情報共有を図っている。  
 ・子どもの日常生活について各担当職員が詳細なケース記録を作成し、成長や医療の記録について心理職等の関係職員も把握している。  
 ・これらの記録は館内ネットワーク共有ソフトにより職員間で共有・閲覧され、施設全体で子どもの支援に取り組んでいる。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	<input type="checkbox"/>



<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	○
<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	○
【コメント】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設長が責任者となって子どもの個人情報保護を徹底している。</li> <li>・入職時には、個人情報保護の観点から記録等の取り扱いについての教育や研修を実施している。</li> <li>・子どもの記録等プライバシーを含むものは、施錠できる場所に保管、外部への持ち出しを禁止して、情報が外部に漏れないよう管理を徹底している。</li> <li>・情報の取り扱いについても、就業規則において個人情報保護・漏洩の防止・インターネットやSNSの取り扱い等を明文化し、職員会議等で職員に周知している。</li> </ul>	

## 内容評価基準（24項目）

### A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

		第三者 評価結果
(1) 子どもの権利擁護		
①	A1 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの思想・信教の自由について、最大限に配慮し保障している。	○
【コメント】		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「子どもの権利擁護について」「救世軍医療事業及び社会福祉事業の理念を考える」「児童及び成年弱者法人保護指針」に基づき、子どもの人権を尊重した養育・支援を行なっている。</li> <li>・マニュアルの内容に基づいた研修を各職員が受講し、職員間で意識や知識の醸成が図られている。</li> <li>・実際の支援の場において、理念や学習（研修に置き換える。）内容が反映された子どもの養育・支援に繋がっているか、チーフ会議・職員会議等で検証しながら進めている。</li> </ul>		
(2) 権利について理解を促す取組		
①	A2 子どもに対し、自他の権利について正しい理解を促す取組を実施している。	a
	<input type="checkbox"/> 権利についての理解を深めるよう、年齢に配慮した説明を工夫し、日常生活を通して支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの年齢や状態に応じて、権利についての理解を深めるよう、権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないこと、また、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。	○
	<input type="checkbox"/> 年下の子どもや障がいのある子どもなど、弱い立場にある子どもに対して、思いやりの心をもって接するように支援している。	○
【コメント】		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設内研修や大阪府社会福祉協議会主催の外部研修参加者からの伝達研修を職員会議で行い、人権擁護について意識を高めている。</li> <li>・子ども一人ひとりに年齢にあった「にこにこノート」「子どもの権利ノート」（大阪府発行）を配布し、こども家庭センターのケースワーカー及び施設職員から内容についての説明や、生活の中での気づきから人権意識を高める声かけを実施している。</li> </ul>		
(3) 生き立ちを振り返る取組		
①	A3 子どもの発達状況に応じ、職員と一緒に生き立ちを振り返る取組を行っている。	a

<input type="checkbox"/> 子どもの発達状況等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集・整理に努めている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返り、子どもの生い立ちの整理に繋がっている。	<input type="radio"/>

【コメント】

・成長記録のアルバムを作成するとともに、こども家庭センターの担当ケースワーカーと連携し、子どもの意向やケースの動きに応じてライフストーリーワーク（生涯経過支援）を実施している。子ども自身が生い立ちの整理に役立てるものになっている。  
 ・真実告知については、子どもの状況をよく見極め、こども家庭センターのケースワーカーから説明することが多い。

(4) 被措置児童等虐待の防止等

① A4 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	b
<input type="checkbox"/> 体罰や不適切なかかわり(暴力、人格的辱め、心理的虐待など)があった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や体罰等の内容・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みがとられている。	
<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、会議等で具体的な例を示すなどして職員に徹底し、行われていないことを確認している。また、不適切なかかわりを発見した場合は、記録し、必ず施設長に報告することが明文化されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けており、不適切なかかわりの具体的な例を示して、子どもに周知し、子ども自らが訴えることができるようにしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができており、被措置児童等虐待の届出・通告があった場合には、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明している。また、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。	<input type="radio"/>

【コメント】

・「被措置児童虐待防止について」のテーマで、施設長やチーフ職員が講師になって施設内研修を行ない、職員の意識を高め、虐待防止に努めている。  
 ・子どもたちが自分の気持ちを伝えやすいように職員間で連携を図っている。  
 ・不適切事例が起こった場合には、こども家庭センター、大阪府と連携をとり最善の方法を考えながら対応するようにしている。  
 ・子どもたちには苦情や相談が出来ること、また具体的にどうすれば良いかの方法は玄関に掲示し、子どもとの面談でも子ども自身が理解していることを確認している。  
 ・「就業規則」の中に、子どもへの体罰や不適切な関わりについての禁止と懲罰についての条項を記載し職員に周知徹底することすることを望む。

(5) 支援の継続性とアフターケア

① A5 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、不安の軽減を図りながら移行期の支援を行っている。	a
<input type="checkbox"/> 子どもの生活の連続性に関して、施設全体でその重要性を理解し、入所や退所に伴う不安を理解し受け止めるとともに、子どもの不安を軽減できるように配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎えることができるよう、受け入れの準備をしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもがそれまでの生活で築いてきた人間関係などを、可能な限り持続できるように配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 家庭復帰や施設変更にあたり、子どもが継続して安定した生活を送ることができるよう、支援を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

・入所にあたっては、子どもが安心して生活場面に入っていけるよう、事前ケース会議等で準備を進め、担当職員とホームの児童が歓迎会等を通して温かく受け入れている。  
 ・不安が高い子どもや支援課題が大きい子どもには担当職員と心理職職員が個別のカンファレンスや事前の協議を実施し、スムーズな受け入れとなるように努めている。  
 ・退所する際も家庭支援専門員の職員が担当をして関係機関と連携してスムーズに移行できるように退所後の転校先や施設とのカンファレンス等を行なうなど配慮している。

②	A6 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

・退所後の子どもの困り事についてはアフターケア担当職員や以前の担当職員が中心となって、退所後の課題等を含めて対応している。  
 ・担当職員が中心となって、不動産会社での部屋探しや必要な物品・家具の購入などを行ない、リービングケアを行っている。  
 ・退所後の状況把握については、適宜台帳を作成し、把握に努めている。  
 ・毎年施設内で退所後の子ども(約20~30人出席)が食事をしながら楽しい交流できる機会を設けている。職員にとっても退所者の成長に接する嬉しい機会となっている。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本		第三者 評価結果
①	A7 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。	b
	<input type="checkbox"/> 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもたちに職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。	

【コメント】

・子どもと職員の信頼関係を高め、居心地の良い居場所にするため、日常の生活場面から子どもの感情や思いを把握し、適切に対応するよう心がけている。  
 ・子どもの生育歴や虐待体験を受けてきた事例から、被虐待児童の反応や情緒面の理解について、施設内研修やケースカンファレンス、外部研修を通して職員が学ぶようにしている。  
 ・子どもを取り巻く社会の変容が、施設養育を受けている子どもにとっては、施設での約束事が厳しく感じるようにもなり満足度にも反映している。現在は複雑な環境から入所する子どもも多く、居室の安全と食生活の充実のみでは子どもの満足が得られないことも考えられる。子どもとの1対1の時間を増やすなどの工夫をすることを望む。  
 ・スマートホンの使用、門限、外泊などについて子どもの気持ち、社会情勢等を加味しながら慎重に検討することを望む。

②	A8 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活をいとなむことを通してなされるよう養育・支援している。	a
---	--	---



<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりの基本的欲求を満たすよう努めている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 生活の決まりは、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別的に触れ合う時間を確保している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。	<input type="radio"/>

【コメント】

- ・食事や睡眠など、子どもたちの基本的な欲求を満たす生活になるよう一室を使用する子どもの人数、プライバシー・友だち関係に配慮している。
- ・子ども一人ひとりの基本的要求を満たす支援として、衣食住の更なる充実に日々努めている。
- ・過去の園内での事案からも学び、今まで以上に子どもの発進するサインに耳を傾け、子どもの求めるニーズが何であるかということ把握するよう心がけ、努力している。

③	A9 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子ども自身が自らの生活を主体的に考え、営むことができるよう支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 快適な生活に向けての取組を職員と子どもが共に考え、自分たちで生活をつくっているという実感を持たせるとともに、施設の運営に反映させている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> つまずきや失敗の体験を大切にし、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	<input type="radio"/>

【コメント】

- ・子どもとの信頼関係を高め、子どもの抱える課題を理解したうえで、必要以上の挫折やパニックを起こさないような日課や行事のプログラムを実施するように努めている。
- ・しかし、社会的に許されないことや施設内の枠・ルールを逸脱することに対しては厳しく説諭し、子どもの反省を促している。
- ・断続勤務の態勢を取ることで十分な数の職員が子どもの支援にあたることができるよう配慮している。
- ・子どもたちが、自分たちの生活を話し合う機会（例えば子ども会など）を設け、職員の助言を受けながら子どもたちが生活ルールの見直しや、行事の企画等を主体的に活動できるよう場面の設定を期待する。

④	A10 発達の状況に応じた学びや遊びの場を保障している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設内での養育が、年齢や発達の状況、課題等に応じたプログラムの下、実施されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握し、可能な限りニーズに応えている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもたちのニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 幼稚園等に通わせている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもたちの学びや遊びを保障するための、資源（専門機関やボランティア等）が十分に活用されている。	<input type="radio"/>

【コメント】



・子どもが快適に過ごす生活フロアや子どもの発達年齢に応じた適切な発達に繋がるように本、楽器、知育玩具、遊具等を用意し提供している。ピアノ指導や学習（公文）ボランティアが毎週来所し、子どもたちの学びを援助している。

・幼児と学童は生活の場を切り離し、それぞれにあったペースの日課を提供している。

・ハイキング、野球大会、夏休みグループ旅行など様々な行事にも子どもの意見や希望を取り入れ、ニーズ・要望に可能な範囲で応じている。魚釣りやサイクリングなども実施している。

⑤	A11 生活のいとなみを通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもが社会生活をいとなむ上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもと職員が十分な話し合いのもとに「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解し、生活するうえでの規範等守るべき決まりや約束を一緒に考え作っていくようにしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会性を習得する機会を設けている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 発達状況に応じ、身体健康(清潔、病気、事故等)について自己管理できるよう支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 発達状況に応じて、電話の対応、ネットやSNSに関する知識などが身につくよう支援している。	<input type="radio"/>

【コメント】

・退所後の生活を見据えて、必要なソーシャルスキルが身につくような日課としている。

・昨今の社会報道や地域の状況を子どもたちに伝える時間を設けて、子どもたちの知見や知識を深めるようにしている。

・子どもの発達に応じて、高校生よりスマートフォンの所持やアルバイトの実施を認め、社会体験をする機会を促している。

(2) 食生活

①	A12 おいしく楽しみながら食事ができるように工夫している。	a
	<input type="checkbox"/> 楽しい雰囲気ですりながら食事できるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食事時間が他の子どもと違う場合にも、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれたもとで、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつをつくる機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

・毎日の食事は年齢に応じた栄養の基準を満たし、献立内容にも十分配慮した子どもの喜ぶものになっている。

・幼児・学童とも適切な量と十分に食べられる時間を設け、年齢に応じた栄養量を満たすものとなっている。また、子どものアレルギーに配慮したメニューを提供している。

・コロナ禍で、学童は居室にて自分の机での食事となっていたが、4月より各フロアでの食事となり、子どもたちは楽しみにしている。

(3) 衣生活

①	A13 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	<input type="radio"/>

<input type="checkbox"/> 発達状況や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	○
<b>【コメント】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・衣類は清潔且つ年齢や気候に応じた適切なものを着用するよう配慮している。</li> <li>・年3回子どもと担当職員が服の買い物に行く機会を設け、子どもの成長段階や好み、季節に応じた服装ができるようにしている。高校生については、自立支援の意味を含めて自身で買い物に行くようにしている。</li> <li>・それぞれの衣類は各居室にある木製ダンスにきちんと収納管理するようになっている。洗濯は、中学生以上は自分でする習慣をつけている。</li> </ul>	
<b>(4) 住生活</b>	
<p>① A14 居室等施設全体がきれいに整美され、安全、安心を感じる場所となるように子ども一人ひとりの居場所を確保している。</p> <input type="checkbox"/> 子どもにとって居心地の良い安心安全な環境とは何かを考え、積極的に環境整備を行っている。	a
<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	○
<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	○
<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	○
<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	○
<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れたり壊れたりしていない。破損個所については必要な修繕を迅速に行っている。	○
<input type="checkbox"/> 発達や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	○
<b>【コメント】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもにとって過ごしやすい環境を考えて、個人の空間を大切に施設内の施設整備を行なっている。</li> <li>・子どもの部屋の設備や備品について、補修が必要であれば速やかに対応している。</li> <li>・共有スペースについては職員が清掃し、常に清潔な状態が保てることを目指している。</li> <li>・子どもの年齢や発達状況に応じて子どもと職員が分担し、協力しながら整理整頓して気持ちよく過ごせる環境になっている。</li> </ul>	
<b>(5) 健康と安全</b>	
<p>① A15 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。</p> <input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	b
<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	○
<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	○
<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	○
<b>【コメント】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの成長記録は、担当職員が定期的に記録している。</li> <li>・月1回の身長・体重測定、年2回の嘱託医により定期健診を実施して記録している。嘱託医は永年施設の子どもの関わりもあり、日常の健康管理の相談にも応じてもらえる良好な関係にある。</li> <li>・子どもの体調に応じて、必要な医療機関を受診している。</li> <li>・感染症が出た場合は、各階のフロアにある静養室を利用して子どもの見守りを行なっている。</li> <li>・子どもの健康管理のため、内部研修・外部研修に参加し研鑽を積んでいる。</li> <li>・沢山の子どもを預かる施設として看護師の配置を検討することを期待する。</li> </ul>	
<b>(6) 性に関する教育</b>	
<p>① A16 子どもの年齢・発達の状況に応じて、他者の性を尊重する心を育てよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。</p> <input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。	b
<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	○
<input type="checkbox"/>	○

- 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達の状況に応じたカリキュラムを用意し、活用している。
- 必要に応じて外部講師を招く等して、性をめぐる諸課題への支援や、学習会などを職員や子どもに対して実施している。

【コメント】

- ・子どもの成長・発達に応じて、男女それぞれの変化・発達課題に適切な介入や性教育を行なっている。
- ・入浴等も男女で利用時間を分けたり、個別入浴にするなど配慮している。
- ・来年度より、男女が生活する棟を別々とする事としている。
- ・性をめぐる諸課題について、講師招請の学習会など知識を深める機会を設けられることを期待する。
- ・幼児対象の性に関する絵本はあるが、中高生向けの書籍本等も備えることを望む。

(7) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A17 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもを安全に保つための配慮がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の要因を十分に分析して、施設全体で立て直そうと努力している。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	○
	<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけ出そうと努力している。	○

【コメント】

- ・子どもの同士や職員への暴言・暴力については毅然とした態度で対応している。
- ・興奮して自傷他害の恐れのある児童については、個室を用意して他児と離して安全を確保し、子どもが落ち着いて指導を聞き入れることができるよう配慮している。
- ・対応が困難な事例については施設内のケースカンファレンス等で対応を協議し、職員が無理なく対応に当たれるようにしている。
- ・子どもへの声かけは人格否定とならないよう法人の指針に則って対応している。
- ・過去の施設内の事案から、職員と子ども、子ども同士の関係の構築に向け、子どもの見守りや、より適切な対応が取りやすくなるよう「職員の勤務シフト」に工夫をしたり、子どもの問題行動を未然に防ぐため、生活態度、心の変化を敏感に受け止めた適切な援助、指導に努めている。

②	A18 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないように施設全体で取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方について定期的に点検を行っており、不備や十分でない点は改善を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 課題のある子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになってきている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合については、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	○
	<input type="checkbox"/> 暴力やいじめに対する対応が施設だけでは困難と判断した場合には、児童相談所や他機関等の協力を得ながら対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども間の性的加害・被害を把握し適切に対応している。	○

【コメント】

- ・子どもの状況をよく見極め、居室や遊び・生活空間でのグループ構成にも子どもたちが気持ちよく過ごせるよう配慮している。
- ・子どもの中での暴力は決して許されないという姿勢を明確にし、早期発見・対応できるよう、子どもに寄り添い、子どもからの訴えに耳を傾けながら対応している。
- ・職員配置も子どもに近い位置にすることができるよう勤務している職員間で連携し合っている。
- ・問題が発生した際には、こども家庭センターや相手方の保護者とも連携し、対応にあたる等の方法をとっている。

(8) 心理的ケア



①	A19 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアを必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	○
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員が必要に応じて外部の心理の専門家からスーパービジョンを受ける体制が整っている。	
	<input type="checkbox"/> 心理療法を行うことができる有資格者を配置し、心理療法を実施するスペースを確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	○

【コメント】

- ・心理士を配置し、毎日午後ホットルームにて、子どもの心理面のケアを行なっている。
- ・子どもの心理ケアにあたっては、専門の治療チームを整備し、必要な物品を揃えている。
- ・心理士は、職員会議、ケース検討会議、こども家庭センターとの支援会議等に参加し、報告・意見交換しながら連携を図っている。
- ・外部の心理専門家のスーパービジョンを受ける体制は十分でなく、体制の整備を望む。

(9) 学習・進学支援、進路支援等

①	A20 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるようにその時の本人の希望に沿えるような個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	○
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 障害のある子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	○

【コメント】

- ・子どもへの学習習慣や学習レディネスが身につくよう、自主的な宿題時間や年中から小学4年までの子どもを対象にしたボランティア2名による公文学習の時間を設けている。また、ボランティアによるピアノ教室や、職員とのクラブ活動など積極的におこない、学習支援に当たっている。
- ・受験生への配慮として、個室や学習室の開放、外部模試の受験等の配慮をしている。
- ・学力が低い子どもや学習態度が身につけにくい子どもには、学校にも配慮をお願いし、連携して学力向上にあたっている。
- ・障がいのある子どもには特別支援学校への入学を推奨し、こども家庭センターと連携しながら支援を行なっている。

②	A21 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	○
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、本人、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 就学者自立生活支援事業、社会的養護自立支援事業、身元保証人確保対策事業、奨学金など、進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報提供をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 学校を中退したり、不登校となった子どもへの支援のなかで、就労(支援)しながら施設入所を継続することをもって社会経験を積めるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて支援、情報提供をしている。	○



	<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。	○
<b>【コメント】</b> ・進路選択にあたっては子どもの希望を聞き、保護者やこども家庭センターのケースワーカーと連携しながら適切な進路決定ができるように、本人・学校・ケースワーカー・保護者を交えた合同カンファレンスを実施している。 ・学校中退や不登校の子どもは在籍していない。 ・高校卒業後も進路を希望する児童については奨学金の取得や保護者、学校との調整を担当職員が実施している。 ・高校卒業後も措置延長を行なう子どもについては、こども家庭センターと連携しながら対応している。 ・来年度より、アフターケア専任職員を配置し、子どもの生活状況等をより掴みやすく援助しやすい状況で、早期対応ができることを期待する。		

③	A22 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。 <input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。 <input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。 <input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。 <input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。 <input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	b
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	○
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	
	<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	○

**【コメント】**  
 ・実習やアルバイトを通して社会体験や収入を得ることの大切さ、人の役に立つことの大切さを学んでいけるよう奨励している。  
 ・実習の際は、子どもからの実習に関する困りごとや悩みがあれば職員が耳を傾け、丁寧に応えている。  
 ・社会経験や就労に寄与する支援からも、アルバイトや各種資格の取得を奨励しており、それに繋がる工業高校への進学を提案している。  
 ・コロナ禍の影響で実習先の開拓があまり進んでいない状況であるが、継続して開拓に尽力することを期待する。

(10) 施設と家族との信頼関係づくり

①	A23 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。 <input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。 <input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。 <input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。 <input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。 <input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	○

**【コメント】**  
 ・保護者や家族が施設の行事や子どもとの面会に気軽に来ることができるよう、年度初めには子どもの成績と施設の行事予定等の案内を同封して送り、行事への参加を積極的に促している。  
 ・園祭（バザー）や運動会等は、保護者に案内を出し子どもと一緒に参加できる親子での楽しい行事にしている。  
 ・学校の参観日や懇談会、運動会などの行事についても保護者に案内を出して、子どもの普段の様子や進路についても触れる機会を設けている。

(11) 親子関係の再構築支援

①	A24 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。 <input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。	b
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。	

□面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。	○
□児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	○

【コメント】

- ・家庭支援専門相談員の職員が子ども家庭センターのケースワーカーと連携しながら、家族再統合の支援につながるようにしている。
- ・子ども家庭センターのケースワークに応じて保護者との面会、外出を実施し、外泊を勧める場合は、施設内の個室の利用など可能な配慮を行ない、家族との関係の継続、修復、養育力の向上に努めている。
- ・実践を基にした親子関係の再構築のための支援方針を明確にしたマニュアルを作成することを期待する。